

# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

## 国立民族学博物館蔵 篠田 統 資料目録 I

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2010-02-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 石毛, 直道 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/3475">http://hdl.handle.net/10502/3475</a>

## 著 作 目 録

### [解説]

略歴の解説にあげた『篠田統先生退官記念論文集』に、先生みずからが作成された「篠田統作品目録」（この論文集の目次では「篠田統業績目録」となっている）に1964年までの先生の著作リストがあげられている。この「作品目録」には221篇の著作が分野別に分類して記載されている。「作品目録」はただ著作をならべたものではなく、先生の文章作成にあたっての姿勢とこのリストづくりの経緯について記した序文がつけられているし、また個々の著作の記載のあとにその作品に関するコメントを付したものもある。

この「著作目録」編集にあたっては、先生の人柄がしのばれる「作品目録」を原型に近いかたちで収録し、「作品目録」に記載されていない著作でわれわれが発見したものと、「作品目録」以後の著作を発表年代順に収録した。すべての著作を分野別の「作品目録」にならって配列することも検討したが、「作品目録」が著者自身でないと分類できないような個性的なカテゴリーわけになっているために、その試みは断念し、機械的な配列法でならべざるを得なかった。したがって、「作品目録」を再録した部分と、それ以降の著作を年代順に収録した「その後の著作目録」の部分の二部で、この「著作目録」は構成されている。

「作品目録」以後に先生がみずからの著作を整理した形跡はなく、著作カードの類も残されていない。そこで、博物館で購入した蔵書と寄贈された資料のなかにあった先生の著書、別刷のリストを作成し、それにわれわれが気づいた著作を補充することによって目録を作成している。寄稿した可能性のある雑誌類などは極力あためてみたが、百科事典などの検討にまでは作業がおよばず、遺漏もおおいと思われる。読者の指摘をまつしだいである。

### [凡例]

この「著作目録」は「作品目録」と「その後の著作目録」の二部から構成されている。著作番号221までは「作品目録」を再録したものである。著作番号222以後の「その後の著作目録」は編者らが作成した部分である。

1) 著作番号221までのもので、原形とことなる点は、ナンバーを3桁とし、ゴシック体に変えたこと、邦文の誌名、書名を『 』でかこい、欧文の場合にはイタリック体

で表記したことである。また、原文にあった明らかな誤記・誤字・脱字・誤植なども訂正してのせてある。なお、適宜、. , 。の付け替え及び付け加えをおこなった。

2) 著作番号222以後は分野別の配列ではなく、発表年代順に配列してある。このさい、おなじ年に発表された著作については発行月日順に配列し、発行年しかわからないものは、その年の著作の末尾にタイトルのアイウエオ順に配列した。記載事項とその順序は「作品目録」を踏襲している。

また、いろいろと調べたが、結局わからなかった記載事項については、?印をつけてある。御存知の方があれば、御教示いただければ幸いである。

3) 著作番号のまえに付した\*印は、その著作の現物が国立民族学博物館に所蔵されているものであることをしめす。

4) [ ]のなかに記載されている事項は、原文にはないものと、編者らが補ったものである。

「作品目録」

わたくしは若いころに、白楽天が台所のバアヤの OK をとってから始めてその作品を公表したという伝説をきかされて、すっかりそれに共鳴し、素人にわからないような文章を書くのは本物ではないと考え、自分の書いたものはどんなものも必ず母親や女房、子供達のだれかの目を通してもらってから、始めて印刷に廻すことにしてきた。おかげ様で先日篠田の書くものは趣味的なテーマを趣味的な文体でつづるお遊びあつかいにされちゃったが、一人さまに判る文章を書くのがどこがいけないんだろう。でも、おかげで今度はひどい目に会った。編集子(姉かな?)が著書目録をつくってくれというのだが、自分ながらどこまでが原著でどれからが雑文やらわからない。仕方がないから書いた年代順に洗いざらい二百余り並べて見たらば、余り雑然としすぎて不得要領だから内容別に分類・整理して欲しいという。誠にごもつもの話ゆえ、下の通り数項目に分類してお目にかける。詩歌俳諧のたぐいは遠慮してあるが、仕事関係では三高時代の青い麦までもならべておいたのは、心の旅路がなつかしかったからの話。器用貧乏のなれの果て、あわれと人も御覽ぜられよかし。(シノダ)

A : 生化学・酵素学・蚕糸化学

- 001 On the Spontaneous Decomposition of Lecithin. *Mem. Coll. Sci., Kyoto Imp. Univ., A, [Memoirs of the College of Science Kyoto Imperial University Series A]* Vol. 7, 1923. 加藤七三共著, 京大理学部化学科卒業論文
- \*002 On the Biochemistry of the Wild Silk-Moth., *Dictyoploca japonica*, Moore. [1. Chemical Development in the Growth of the Wild Silk-Moth.] *Mem. Coll. Sci., Kyoto Imp. Univ., A, [Memoirs of the College of Science Kyoto Imperial University Series A]* Vol. 9, 1925.
- \*003 Über die Eiweisslösenden Enzyme im Magensaft von *Astacus*. *Zeits. f. vergl. Physiol.*, Bd. 7, 1928. オランダ Utrecht 大学学位論文, Jordan 教授指導
- 004 Vergleich der Enterokinase verschiedener Herkunft. *Zeits. f. physiol. Chem.*, Bd. 1928. E. Waldschmidt-Leitz 共著
- 005 On the Proteolytic Enzymes of the Silk-Worm, *Bombyx mori*. *Jour. Biochem.* Vol. 11, 1930.
- 006 A Comparison of the pH Optima of the Digestive Enzymes from Different Groups of Insects. *Anniversary Vol. dedicated to Prof. M. Chikashige,*

*for His 60th Birthday.* 1930.

- 007 Starch Digestion in the Silkworm, *Bombyx mori*, L. *Annot. Zool. Japan.*, 1931.
- 008 家蚕の營養化学と養蚕の實際問題 『京都化学学士会会報』21号 1931
- 009 再び家蚕の消化酵素について 『動物学雑誌』44巻 1932 講演抄録
- \*010 研究室覚え書1 セルロイド玩具の貯蔵法 [[セルロイド玩具の標本保存]]・蛋白酵素簡易定量法 『家事と衛生』8巻[第7号] 1932
- \*011 同上 [[研究室覚え書]]2 毛虫による刺傷・スンプについて 『同上』[[家事と衛生』第8巻第8号 1932]
- \*012 同上 [[研究室覚え書]]3 含水量の測定 『同上』[[家事と衛生』第8巻第9号 1932]
- \*013 同上 [[研究室覚え書]]4 同つづき [[含水量の測定]つづき]・乾燥温度と炭水化物の変化 『同上』[[家事と衛生』第8巻第10号 1932]
- \*014 同上 [[研究室覚え書]]5 ゼリーの作り方・昆虫採集用毒瓶 『同上』[[家事と衛生』第8巻第11号 1932]
- 015 家蚕の金属代謝 『動物学雑誌』46巻 1934 講演抄録 細辻伊八郎共著
- 016 研究について 『京都化学学士会会報』25号 1934
- 017 研究について 『家事と衛生』10巻 1934 2回に分載されたが、書き下しだったか、016の転載だったか記憶しない。
- 018 家蚕の金属代謝Ⅱ 『動物学雑誌』47巻 1935 講演抄録 細辻伊八郎共著
- 019 貯蔵桑葉の栄養学的研究 郡是製絲会社への報告書 1935
- 020 殺蛹剤の研究Ⅰ 同上 [郡是製絲会社への報告書] 1935
- 021 同上 [殺蛹剤の研究]Ⅱ 同上 [郡是製絲会社への報告書] 1935
- 022 家蚕軟化病の生化学的早期診断 同上 [郡是製絲会社への報告書] 1935
- 郡是製絲会社から同社蚕事所鈴木純一氏の御高配により研究費が年々若干贈られたので、この時期——動物学教室十年間の無給講師時代——の研究は非常に助かった。その御厚意は忘れられない。昭和18年河南省清化付近で得た脊椎部戦傷の後遺症としてのひどい座骨神経痛になやみ、あらゆる実験操作が医師により禁止されたため、止むを得ず、戦後は自身で化学や顕微鏡実験にたずさわ

B : 料 理 化 学

023 料理の化学 『京都化学学会会報』20号 1930

この雑誌は京大理学部化学教室の同窓会報である。当時としては余り突びようしもない仕事をはじめたので、一応本誌にのせて、同窓生諸君の意見をきいたわけ。以下、このシリーズの仕事は京都市平安女学院専攻部で行なったもの。早川喜四郎院長の激励と郡是製絲会社の(かげ乍らの)経済的バックアップのおかげである。

\*024 料理の化学——甘藷の煮え加減に就て 『京都化学学会会報』21号  
1931 [小寺鈴共著]

025 料理の化学——再び芋の煮え加減 『同誌』[『京都化学学会会報』] 22号  
1931

\*026 The Chemistry of Cooking. I. [The Chemical Changes of Carbohydrates  
in the Sweet Potato According to Various Methods of Cooking.] *Biochem.  
J.* [Vol. XXV, No. 6] 1931. 小寺鈴・大家千代共著

京化学士会報で自信がついたので、本式の論文に書き、東京へ送ったところ、本誌は純粹の科学雑誌だから女学校でやった料理の研究なんか載せない、と突かえされた。腹が立ったので、即夜英訳し、学校がアメリカ・ミッション故いたくない腹を探られるのも豪腹だから、ロンドンの *Biochemical Journal* の編集者に送りつけたら、これは直ぐのせて呉れた。

027 料理の化学 I 『生理学研究』8巻[9巻]9号 1931 小寺鈴・大家千代共著  
上記の日本版

\*028 The Chemistry of Cooking. II. [On the Critical Temperature in Cooking  
the Sweet Potato.] *Biochem. J.* [Vol. XXVI, No. 3] 1932. 小寺鈴共著

第2報はのっけからロンドンに送った。すると、此年の秋の学会で東京のさるお豪方から、君は日本人で日本で仕事しながら何故他国で発表するのかと詰問されたのには驚き、かつ呆れた。事情を聞いて、それは済まなんだ、ドシドシ出すから送って呉れ、といわれたが、もう馬鹿馬鹿しく、それっきりその学会誌には原稿は送らない。いや日本という国は、誰にも判るテーマを誰にも判る言葉で発表することの、何と難しい国であることよ。

\*029 料理の化学 第2報 『実験消化器病学』7巻 1932 小寺鈴共著

\*030 料理の化学 第4回 『京都化学学会会報』23号 1932

- 031 料理の化学 第3報 調理による食物発熱量の変化 『家事と衛生』8巻  
1932

これは確か小寺君単独発表だったやも不知。『家事と衛生』という雑誌は大阪市立衛試の藤原九十郎所長が道楽半分に(?)出してられた。その頃関西では唯一の家政学の発表機関であった。私どもいろいろ御世話になった。なつかしい雑誌だ。

- \*032 料理の化学 特に圧力の影響について 『日本医事新報』第623号 1934[8月]  
小寺鈴共著

これは非常に面白い成績が出たので、もう少し細かい所を仕上げた上でロンドンへ送るつもりだったが、間もなく私の陸軍入りの話がおこり、雑用に手をとられてそのままになっているのが心残りだ。但し、今日3回生の調理科学実験にはこの成績をどしどし使っている。農学部や試験場あたりでやる食品分析などとなり、料理過程の生化学的变化というホントウの家事化学にとっくんで漸く十年、これからという時に私は出征する。早川老院長も退院されると共に、学校内の早川体制もバラバラにされる。で、小寺君は神戸女学院を経て光華女大へ、大家君は結婚、福森君(後出)は京都工試から民医連へ、助手の伊藤君はキリンビール研究所へと、折角の研究体制も四散した。これが戦後、池田で、別の形で再開される訳である。

C : 植物学・動物学(生理・生態)

- \*033 Contributions to the Knowledge of the Intestinal Secretion of Insects. I. Mid-Intestinal Secretion of Lepidoptera, with an Appendix: Behavior of Mitochondria in the Mid-Intestinal Epithelium of the Silk-worm, *Bombyx mori*, L. *Mem. Coll. Sci., Kyoto Imp. Univ. B*, [*Memoirs of the College of Science Kyoto Imperial University Series B*] Vol. 2, No. 2, 1926.
- \*034 Einige Beobachtungen über die Ernährungsbiologie der wilden Seidenraupe, *Dictyoploca japonica*, Moore. *Mem. Coll. Sci., Kyoto Imp. Univ. B*, [*Memoirs of the College of Science Kyoto Imperial University Series B*] Vol. 2, No. 2, 1926.
- \*035 Contributions to the Knowledge of Intestinal Secretion in Insects. II. A Comparative Histo-Cytology of the Mid-Intestine in Various Orders of Insects. *Zeits. f. Zellforsch. u. mikrosk. Anat.*, Bd. V. 1927.

京大学位論文。指導教官川村教授。この一連の仕事は菱内収博士に非常に世話になった。

- 036 昆虫の含水量について 『動物学雑誌』44巻 1932 講演抄録
- 037 Biochemical Study of Dermestid Beetles. *J. Biochem.* Vol. 16, 1932.  
倉田正郎共著
- \*038 昆虫雑話 天然の人為に及ばざる事・画家と家蠅の甲乙に就て・総ての人間は色盲だ・痘痕の笑靨に見えた話 『京都化学学会会報』26号 1935
- \*039 甘藷発芽の生化学的研究Ⅰ 発芽による甘藷炭水化物の変化 『植物及動物』4巻第1号 1936[1月] 小寺鈴共著
- \*040 山城の甘藷 『京都化学学会会報』29号 1937
- \*041 続昆虫雑話 毛虫を食べましょ・夏空に毛も軽く・蚊は天翔る・蚊は藪がお好き・蜜を尋ねる・蛾の職工病 『京都化学学会会報』29号 1937
- 042 ノモンハン地区植物誌 関東軍に提出した報告 1939
- \*043 甘藷発芽の生化学的研究Ⅱ 発芽時のガス代謝 『植物及び動物』10巻[第7号] 1942[7月] 福森かずへ共著
- 044 山西省垣曲地区生物調査報告 北支軍へ提出 1944ころ  
この一連の報告は沢山あるはずだが、手許に控えもなし、事実の記憶以外にも判らなくなった。
- 045 山東の寒天業 北支軍に提出した報告書 1944
- \*046 閃緑岩と生物 『日本動物学会近畿支部会報』2号 1950[5月] 講演抄録
- \*047 三草山の生態学的研究 『学術』1号 1953[3月]

#### D：衛生昆虫学・医動物学

- \*048 蠅の日周期 『植物及動物』3巻第1号 1935[1月] 安藤多枝共著  
私の医動物も案外古く、別に軍医部に放りこまれてから始まったのでも無さそうだ。
- 049 北満の蛇 関東軍への報告書 1939
- 050 長嶺ベスト地帯の鼠族の生態 同上[関東軍への報告書] 1940
- 051 北満衛生動物志 同上[関東軍への報告書] 1940
- 052 ハイラルにおける発疹チフス防疫実況 同上[関東軍への報告書] 1940
- \*053 北支を中心とする医用昆虫学（初任軍医教育用テキスト）1942～1945年まで  
4版



- 054 北支におけるマラリア流行の特異性 北支軍への報告書 1943
- \*055 昆虫防疫綱要 同上 [北支軍への報告書] 1944
- \*056 華北衛生動物雑記 『生理生態』1巻 1947
- \*057 察哈爾の鼠族分布とその指標植物 『生物』2巻 1947
- \*058 農村と蚊 『村』13号 1947
- \*059 アムールの鼠 『学芸』31号 [『学海』第4巻第4号] 1947
- 060 虱と俳句その他 『学苑』1巻 1947
- \*061 ネズミ三話 『村』15号 1948
- \*062 ネズミと有害昆虫の話 京都市衛生局パンフレット 1949
- \*063 昆虫防疫 同上 [京都市衛生局パンフレット] 1949  
共に保健所係員教育のため。
- \*064 夏と蠅 『京都市衛生月報』15号 1949[8月]
- \*065 蚤の夏 同上 [『京都市衛生月報』] 16号 1949[11月]
- \*066 On Japanese Species of Phlebotomus. *Trans. Kansai Ent. Soc. [The Transactions of Kansai Entomological Society]* Vol. 15, 1950.
- \*067 京都産サンショウバエの生態 『日本動物学会近畿支部会報』3号 1950[11月] 講演抄録
- \*068 京都市におけるサンショウバエの分布と生態 『防虫科学』16号 1951[9月]
- \*069 満州長嶺ベスト地帯の生態学的観察 『衛生動物』4巻 (小林晴治郎博士記念号) 1954
- \*070 白川の蚊と蠅 『愛郷』(北白川愛郷会機関誌)3号[5号] 1963  
軍医部8年間は医動物学が専門だった。帰ってからも大阪府・京都府・京都市など、時々厚生省関係の仕事にも引出されたが、今村衛生局長時代の京都市をのぞき他は医者中心が露骨すぎて不愉快だったので、十年ほど前からこの方面とは一切縁を切ることにした。ただ、当時三共高嶺研の熊沢誠義氏の下にとってもらった北京時代の助手だった池田安之助君の仕事だけは後まで相談にのった。同君が京都府[立医]大の員外研究生となり、一昨年——旧制商業学校三年生中退の身で——長花教授の指導下に医学博士の学位を得た時は、何よりも嬉しかった。

E：家政学・家庭科教育（鮎・酒をのぞく）

- 071 京都市女学生嗜好食品調査 『家事と衛生』 9巻 1933 伊藤梅野・岡信子共著  
これにつづいて盲学生の調査も行なったはずだが、何巻に出したか一寸わかりかねる。
- \*072 家庭燃料の合理化 丸美屋主催講演会テキスト 1934ころ
- 073 家庭科では何を教えるか 『家事と衛生』 11巻 1935
- \*074 被服害虫の防除 『同誌』『家事と衛生』 13巻 1937
- \*075 家庭科教育の在り方 『豊中市教研〔教育研究所〕紀要』 3号 1951
- \*076 家庭科教育における実技の問題 『生活文化研究』 第1冊 1952
- \*077 彦根市松原町生活実態調査報告(第1報) 『滋賀県立短期大学雑誌B』 1巻 1952 馬場りら子等共著
- \*078 明治維新の家族制度に及ぼせる影響 『大阪学芸大学紀要B』 1号 1953[3月]
- \*079 農家の相続問題について 『村』 72号 1953
- \*080 中国小菜ニツ三ツ 『食道楽』 7号 [1954]
- \*081 欧州小菜ニツ三ツ 『同誌』『食道楽』 8号 [1954]
- \*082 北京の秋は羊肉から 『同誌』『食道楽』 9号 [1954]
- \*083 藩政末期におけるある山村の生活——河内国滝畑村の場合 I 日々の暮し 『大阪学芸大学紀要B』 第3号 1955  
2～4報は上村・宮川・飯田三教官の執筆にかかる。
- \*084 同上 [藩政末期におけるある山村の生活——河内国滝畑村の場合] V 村の出来ごと 『生活文化研究』 第4冊 1955
- \*085 湯文字談議——家政科の在り方 『おおさか教育』 3号 1956
- \*086 家庭科の基盤 『生活文化研究』 第5冊 1956
- \*087 創刊のことば——寸言 『〔大阪学芸大学〕生活文化研究会同窓会報』 1号 [創刊号] 1956
- \*088 大阪うまいもの談義 『日本料飲新聞』 1957[8月11日・21日・9月1日・11日] 座談会記事
- \*089 士族屋敷 『生活文化研究』 第7冊 1958
- \*090 家庭科における「歴史的」なるもの 『大阪学芸大学紀要C』 1号 1960
- \*091 新おあむ物語 [——機無女聞書] 『生活文化研究』 第9冊 1960

- \*092 ビールあれこれ 『うまいもの』51号 1960
- \*093 オランダのおそうざい 『同誌』[『うまいもの』]60号 1961
- \*094 家庭科における「社会的」なるもの 『大阪学芸大学紀要C』2号 1961
- 095 現代生活ときもの 『淡交』増刊6号 1961
- \*096 家庭科における「技術的」なるもの 附家庭科と商品学 『大阪学芸大学紀要C』3号 1962[3月]
- \*097 車窓から見た近ごろの衣生活 『本誌』[『生活文化研究』第11冊] 1962
- 098 イタリヤの駅弁 『うまいもの』73号 1962
- \*099 京都の料理と食物 『国文学 解釈と観賞』[第318号]臨時増刊号 [『京都のすべて』] 1962 のち単行書となる [『京都のすべて』至文堂 1962 刊行]
- \*100 推理小説とアメリカン・ライフ 『本誌』[『生活文化研究』]第12冊 1963
- 101 食事に関するシナの笑い話 『調理文化』63号 1964
- \*102 多聞院英俊の性格と生活——夢を中心として—— 『本誌, 本冊』[『生活文化研究』第13冊 (篠田統先生退官記念論文集)] 1964

F: 鮓

- \*103 鮓考その1 中国における鮓の変遷 『本誌』[『生活文化研究』]第1冊 1952  
干景讓教授の翻訳『大陸雑誌』に。[『鮓考』『大陸雑誌』第15巻第2期 1957]
- \*104 鮓考その2 近江の鮓 同上 [『生活文化研究』]第1冊 1952
- \*105 鮓考その3 紀伊・南和の鮓——熊野灘魚系のすし 『本誌』[『生活文化研究』]第2冊 1953
- \*106 鮓考その4 北陸の鮓——富山湾魚系の鮓 同上 [『生活文化研究』]第2冊  
1953 飯田喜代子共著
- \*107 鮓考その5 大阪鮓——蛸竹阿部老人聞書 同上 [『生活文化研究』]第2冊  
1953 飯田喜代子共著
- \*108 鮓考その6 近畿・中国の鮓 『本誌』[『生活文化研究』]第3冊 1954 飯田  
喜代子共著
- \*109 鮓考その7 東海・関東の鮓 同上 [『生活文化研究』]第3冊 1954
- \*110 鮓考その8 四国の鮓 『本誌』[『生活文化研究』]第4冊 1955 飯田喜代子  
共著
- \*111 おすしの由来 『鮓の話』(パンフレット) 1955
- \*112 鮓と米——わが国における稲の導入経路に関する一考察 『大阪学芸大学紀要

篠田統資料目録 I (著作目録)

- B』4号 1956 飯田喜代子共著
- \*113 通地獄 『寿司の友』1号 1957
  - \*114 鮓と青葉 『同誌』[『寿司の友』]3号 1957
  - \*115 おすしの変遷 『家庭科教育』31号 1957
  - \*116 鮓考9 鮓年表1——シナの部 『本誌』[『生活文化研究』]第6冊 1957
  - \*117 釣瓶鮓縁起 『大阪学芸大学紀要B』7号 1959
  - \*118 鮓考10 鮓年表2——日本の部 『本誌』[『生活文化研究』]第10冊 1961
  - \*119 スシ料理 『中国菜』5号 1962

雲散霧消した平安女学院時代の料理化学研究室が池田で再建されたわけだが、設備や私自身の健康の関係などの点から、再発足はスシですることになった。実験面は専ら飯田助教授が担当し、私は食物史的立場をとって来た。スシについて酒、雑煮(餅)と畑はひろがっていく。

G：酒造及び酒造史

- \*120 白乾酒、附高粱の伝来について 『学芸』39号 1948 千景讓教授訳あり(『大陸雑誌』[『大陸雑誌』]第14巻第1期 1957)
- \*121 春宵・酒談議 『新大阪新聞』1950[3月4日]
- \*122 手醸りから杜氏集団へ 『本誌』[『生活文化研究』]第4冊 1955
- \*123 白酒——「食物史十二ヶ月」のうち 『集団給食ニュース』222号 1955[3月]
- \*124 杜氏の由来 1～18回 『週刊醸造』1956[2月18日～9月1日]
- \*125 西日本の酒造杜氏集団 『京都大学人文科学研究所研究調査報告』第15号 1957
- \*126 江州野洲郡北組酒造仲間の桶帳 『本誌』[『生活文化研究』]第6冊 1957
- \*127 近世末期江州野洲郡における酒造業とその技術 『大阪学芸大学紀要B』第5号 1957
- \*128 酔談——酒造史ノートから 1～7回 『週刊醸造』1957[8月31日～10月12日]
- \*129 南都多聞院の酒造 『本誌』[『生活文化研究』]第7冊 1958
- \*130 近畿の斜陽杜氏集団 『本誌』[『生活文化研究』]第8冊 1959
- \*131 奥能勢の酒造史資料 『大阪学芸大学紀要B』8号 1960
- \*132 池田酒造史 『池田市史』第2冊「各説編」1960
- \*133 中世の酒 藪内清編『中国中世科学技術史の研究』[角川書店刊行]所収 1963

- \*134 日本の古い酒造りをもとめて 『日本醸造協会雑誌』59巻2号 1964 座談会  
記事
- \*135 暖気樽小考 『大阪学芸大学紀要B』12号 1964
- \*136 大阪府酒造史概説 『大阪の酒米』所収 1964
- \*137 我国在来の酒造法について 『日本醸造協会雑誌』[59巻12号] 1964

## H：科学史・食物史

- 138 馬と日本人の渡来時期について 『民族と歴史』1918ころ  
三高生の折，編集者喜田貞吉博士への質問文。私の史癖も古い話さ。[該当記  
事見当らず，雑誌名誤認と思われる]
- \*139 小麦のシナへの伝来 『東光』9号 [1949 弘文堂出版刊行]
- \*140 五穀の起源 『自然と文化』2冊 1951 一部干景讓教授の訳あり（『大陸雜  
誌』）[『積穀』『大陸雜誌』第24巻第5期]
- \*141 明代の食生活 藪内清編『天工開物の研究』[恒星社厚生閣刊行] 所収 1953  
章熊等による中共訳（『天工開物研究論文集』1957）蘇等による台湾訳（『天工  
開物之研究』1956）あり
- \*142 小豆雑煮 [—志摩国海女民俗断片] 『大阪学芸大学紀要B』2号 1954
- \*143 餅と雑煮（食物史十二ヶ月のうち）『集団給食ニュース』220号 1955 [1月]
- \*144 豆腐と油揚げ（食物史十二ヶ月のうち）『同上』[『集団給食ニュース』] 221号  
1955 [2月]
- \*145 源氏物語とにんにく（食物史十二ヶ月のうち）『同上』[『集団給食ニュース』]  
223号 1955 [4月]
- \*146 ちまき（食物史十二ヶ月のうち）『同上』[『集団給食ニュース』] 224号 1955  
[5月]
- \*147 いねとこめ（食物史十二ヶ月のうち）『同上』[『集団給食ニュース』] 225号  
1955 [6月]
- \*148 瓜（食物史十二ヶ月のうち）『同上』[『集団給食ニュース』] 227号 1955 [8  
月]
- \*149 北京の麵類（食物史十二ヶ月のうち）『同上』[『集団給食ニュース』] 229号  
1955 [10月]
- \*150 ムギとパン（食物史十二ヶ月のうち）『同上』[『集団給食ニュース』] 231号  
1955 [12月]

篠田統資料目録 I (著作目録)

- \*151 菰と瞿麦と麻と——忘れられた穀物 『本誌』『生活文化研究』第5冊 1956  
一部干訳あり
- \*152 続小豆雑煮 [——裏日本と表日本との交流の経路について] 『大阪学芸大学紀要B』6号 1958
- \*153 古代シナにおける割烹 『東方学報 [京都]』第30冊 1958[1959]
- \*154 ぞうにとすしと酒 『新潟日報』1960[5月11日] 座談会記事
- \*155 米・貧乏人・多産 『文芸春秋』6月号 [「巻頭随筆」] 1961
- 156 小豆 『中国菜』2号 1961
- 157 「茶経」輪講 『淡交2～3月号』座談会記事 1961<茶の源「茶経」輪講2,  
茶のつくり方「茶経」輪講3>
- \*158 唐代の茶 『本誌』『生活文化研究』第11冊 1962
- \*159 茶筌談議 『淡交』正月号 1962
- 160 キウリの弁 『寿』5月号 1962
- \*161 粉食の展開 『大阪学芸大学紀要B』11号 1963
- \*162 粉食と粒食 『史泉』27/28号 1963
- \*163 郭璞評伝 藪内清編『中国中世科学技術史の研究』所収 1963
- \*164 食経考 同上 [『中国中世科学技術史の研究』所収] 1963
- \*165 唐詩植物積 同上 [『中国中世科学技術史の研究』所収] 1963 一部干訳あり
- \*166 食経考追加その他 『本誌, 本冊』『生活文化研究』第13冊 (篠田統先生退官  
記念論文集) 1964
- \*167 幽風七月の舞台 『大阪学芸大学紀要B』13号 [1965]

I : 地 理・民 俗

- \*168 北海道樺太の水産業 『京都化学学士会会報』22号 1931
- \*169 大陸風土記 『学海』4号 [第4巻第3号] 1947
- \*170 流氓の生態 『学芸』37号 1948
- \*171 中国のうかひふね 『同誌』『学芸』38号 1948
- \*172 楽書 『同誌』『学芸』38号 1948
- \*173 潞安の尼 『同誌』『学芸』38[31]号 1948[1947]
- \*174 道場の鮮魚市 『コスモス』2号 1948
- \*175 近江カルスト台地の生活 『本誌』『生活文化研究』第2冊 1953 [飯田喜代  
子・安孫子保子共著]

- \*176 色盲の多い村の生態 『滋賀県立短期大学雑誌B』3号 1954
- \*177 村の作物と村人の健康 『同誌』『滋賀県立短期大学雑誌』「中野特集号」  
1954
- \*178 山神と野神 『同誌』同号『滋賀県立短期大学雑誌』「中野特集号」 1954
- \*179 播州宍粟郡繁盛村民俗志 『本誌』『生活文化研究』第6冊 1957
- \*180 丹波大山民俗断片 『民俗』3巻 1959
- \*181 大阪の生活 [—ドライな大阪人] 『毎日新聞』1959[10月11日] 民族学会  
講演要旨 [日本人類学会・民族学協会連合大会]
- \*182 出世譚 『冊府』13号 1960
- \*183 「座送り証文」追加 『民俗』5巻 1961
- \*184 「山内者」の生活 『大阪学芸大学紀要B』10号 1962

J : 旅 行 記

- 185 故都三題 『獄水会誌』1919  
朝鮮平壤（高句麗）・扶餘（百濟）・慶州（新羅）三故都の旅行記。何せ中学の  
時にはり出された作文が叡山紀行で、旅も亦、子供のころからのホビーだった  
らしい。
- 186 和蘭ユトレヒトより 1～2 『教会時報』1927
- 187 ルーテルの町々 1～3 『同誌』『教会時報』1928
- 188 伊勢の浜萩 『京都化学学会会報』19号 1930 ヨーロッパ旅行記
- 189 南紀採集記 『同誌』『京都化学学会会報』20号 1930
- 190 紙・寒天・竹細工 『同誌』『京都化学学会会報』21号 1931
- \*191 鯉の旅 『同誌』『京都化学学会会報』22号 1931
- \*192 往返東三省記（謝彬の紀行の翻訳）『同誌』『京都化学学会会報』23号  
1932
- \*193 牡蛎をダシにして歩いた話 『同誌』『京都化学学会会報』23号 1932
- \*194 当世異国商売往来（187を増補したもの）1～8 『家事と衛生』8～9巻  
[8巻8～12号, 9巻2・4・7号] 1932/33
- \*195 吉備談語 『京都化学学会会報』24号 1933
- \*196 新撰丹波風土記 『同誌』『京都化学学会会報』24号 1933
- \*197 北山時雨 『同誌』『京都化学学会会報』25号 1934
- \*198 浄瑠璃日記 『同誌』『京都化学学会会報』25号 1934

篠田統資料目録 I (著作目録)

- \*199 高見・大台 『同誌』[『京都化学学会会報』] 25号 1934
- \*200 関三州 『同誌』[『京都化学学会会報』] 28号 1936
- \*201 新撰山城風土記 『同誌』[『京都化学学会会報』] 28号 1937
- \*202 土塩を見る 『学芸』31号 1947
- \*203 佐曾利村 『村』26号 1949
- \*204 美作国新庄村 『本誌』[『生活文化研究』] 第9冊 1960
- \*205 伊奈の春 『本誌』[『生活文化研究』] 第12冊 1963

K：農業・その他

- \*206 什錦炒飯 『京都化学学会会報』26号 1935 シナ関係雑話集なり
- \*207 農村の機械化・農村の科学化 『村』3号 1946
- \*208 植物栽培業 『村』16号 1948
- \*209 皆さん、どう思いますか 『村』19号 1948
- \*210 不怕 『暁星』1号 1949 不怕というシナ語の注釈
- \*211 山羊と開拓団 『村』32号 1949
- \*212 農民の無自覚 『村』42号 1950
- \*213 農業教育の方向 『村』44号 1950
- \*214 開拓のその後 『村』60号 1952
- \*215 農村の栄養と山村の栄養 『村』61号 1952
- 216 麴塵——風俗史における漢字の問題 『風俗』1巻2号 1961
- \*217 風俗史ニオケル漢字ノ問題 『カナノヒカリ』10号 1962 上記の要旨

L：単行書

- 218 『比較消化生理』『岩波講座「生物学」』所収 1931 再版あり
- \*219 『米と日本人』 角川新書 1961
- 220 『すし』 下田吉人編『調理科学講座』所収 1962 飯田喜代子共著

追加

- 221 すしの話 『京都の化学工業』5号 1961 (講演筆記)

歌や俳句(のようなもの)なんか省略したし、脱漏も多少はあるだろうが、これで一応は私という男の生き方が判っていただけれると思う。(シノダ)



「その後の著作目録」

1931年

222 樺太及び北海道見学旅行 『京都化学学会会報』22号 11月

1932年

223 南唐李詞試訳 『京都化学学会会報』23号

1934年

224 織物と昆虫 『染織談話会講演集』5月13日

\*225 比叡の鳥 『ADONIS』私家版

1937年

226 カップシムシの生化学 掲載誌不明

1944年

\*227 蚤の嗅覚 [北支軍への報告書] 5月25日

\*228 青島及芝罘ノ生物 [北支軍への報告書] 10月

\*229 北支の昆虫防疫 [北支軍への報告書] 12月

\*230 河川中の虱 [北支軍への報告書]

\*231 セスジャブカの分布 [北支軍への報告書]

1947年

\*232 編集後記 『学海』二月号 第4巻第2号 2月 秋田屋

1949年

\*233 夏と蠅 『京都市衛生月報』14号 8月

\*234 恐怖の蚊 京で発見 『都新聞』9月25日

1950年

\*235 水爆昆虫サンショウバエ 『国際新聞』3月14日

\*236 おすしの由来 小冊子

1952年

\*237 西能勢概況 その一 『生活文化研究』第1冊

1953年

\*238 三ヶ牧村生活実態調査報告 『生活文化研究』別冊 6月

\*239 個人の限界——天工開物訳後感 『[京都大学人文科学研究所] 所報』第37号  
11月

\*240 胃袋と健康 『村』第81号

篠田統資料目録 I (著作目録)

1954年

- \*241 すしの權威にきく 『東京新聞』 2月
- \*242 酒を造る人——杜氏について 『[京都大学人文科学研究所] 所報』 第39号  
4月
- \*243 志摩国片田村生活実態調査報告 『生活文化研究』 第3冊 7月
- \*244 杜氏の動き [近畿における前近代産業の総合的調査] 『調査だより』

1955年

- \*245 河内長野市滝畑生活実態調査報告 『生活文化研究』 第4冊 7月 (大阪学  
芸大学家政科教室調査の代表として取りまとめ)

1957年

- \*246 杜氏の生態について 『醸造タイムス』 7月 (第五回酒造講習会講演要旨)
- \*247 杜氏の生態について 『醸造新報』 7月 (同上)
- \*248 東亜の鮓・日本の鮓 『寿司の友』 創刊号

1958年

- \*249 米食の科学 『読売新聞』 11月17日

1960年

- \*250 大阪人の生活意識 『大阪倶楽部会報』 79号 [7月]
- \*251 スシにも古典がある 『大阪新聞』 10月26日

1961年

- \*252 座談会 食生活とマス・メディア 『淡交』 増刊第9号 (吉田光邦・加藤秀俊  
と鼎談)
- \*253 生活実態調査報告——大阪府三島郡三島町鳥飼地区 大阪学芸大学刊行

1962年

- \*254 京の料理と食物 『京都のすべて』 8月 至文堂刊行 [「作品目録」の099の単  
行本版]

1964年

- \*255 古代の米と酒 『大阪新聞』 2月25日
- \*256 スシいまむかし 『大阪新聞』 2月26日

1965年

- \*257 作品目録 『生活文化研究』 別冊『篠田統先生退官記念論文集』 (『生活文化研  
究』 第13冊) の別刷 1月
- \*258 略歴 同上

- \*259 お断り 同上
- \*260 食経考追加その他 同上
- \*261 名婦伝 『退官記念講演(要旨)』2月 退官記念講演会パンフレット
- \*262 生活実態調査報告 『生活文化研究』第14冊 10月 大阪学芸大学家政科教室  
調査の代表として取りまとめ

1966年

- \*263 『すしの本』1月 柴田書店[初版]
- \*264 すしの本補訂 油印私家版 2月 (上記の補訂表)
- \*265 日本酒の源流 『風俗』6巻4号 3月
- \*266 お米のはなし——すしと酒と巡って 『日観連旅館経営研究シリーズ』18 7  
月
- \*267 握り飯 『風俗』6巻1号 8月
- \*268 産業界が女子教育に望むもの 『日々グラフ』11月1日号

1967年

- \*269 すしの「馴れ」について 食品科学会パンフレット 2月
- \*270 羊羔酒 『四条畷学園女子短期大学研究論集』1 3月
- \*271 飲膳正要について 藪内清編『宋元時代の科学技術史』京都大学人文科学研究所  
所刊行 3月 [341・466に所収]
- \*272 宋元酒造史 藪内清編『宋元時代の科学技術史』京都大学人文科学研究所刊  
行 3月 [341・466に所収]
- \*273 河内風俗聞書1 『四条畷学園女子短期大学研究論集』1 3月
- \*274 「種蒔譜」と朝鮮の甘蒔 『朝鮮学報』第44輯 7月 (影印『種蒔譜』の解  
説)
- \*275 苗代川——薩摩焼の食器類について 『風俗』7巻1号 10月

1968年

- 276 暮しの中の中国 貝塚茂樹・桑原武夫編『日本と中国』講座「中国」第5巻  
筑摩書房 1月
- \*277 日本酒の源流 (金関丈夫博士古稀記念委員会編)『日本民族と南方文化』2月  
平凡社 [304に所収]
- \*278 On the Origin of Japanese Sake Brewery (金関丈夫博士古稀記念委員会  
編)『日本民族と南方文化』英文パンフレット 2月
- \*279 『家政学序説』京都 化学同人社 長崎多美子氏と共著

篠田統資料目録 I (著作目録)

- \*280 短大二十年 『四条畷学園女子短期大学研究論集』第2号 3月
- \*281 河内風俗聞書2 『四条畷学園女子短期大学研究論集』第2号 3月
- \*282 中国の食べ物と飲み物(一) 『中国古典文学大系月報』7 4月 平凡社
- \*283 中国の食べ物と飲み物(二) 『中国古典文学大系月報』8 5月 平凡社
- \*284 食品の調理と料理—日本酒をふくむ— 日本風俗史学会編『近代日本風俗史』  
第5巻 5月 雄山閣
- \*285 お豆腐のはなし 『楽味』6月
- \*286 中国の食べ物と飲み物(三) 『中国古典文学大系月報』9 6月 平凡社
- \*287 お豆腐の歴史 食品科学会編パンフレット 8月
- \*288 豆腐考『風俗』8巻1号 11月 (『大陸雑誌』第42巻第6期に干景讓の中国訳  
あり)
- \*289 鋤焼雑考 『風俗』8巻1号 11月

1969年

- 290 『天工開物』 東洋文庫130 平凡社 1月 (宋応星撰・藪内清他訳注)
- \*291 「序文」『すし調理師への道』刊行者不明 4月
- \*292 食品の調理と料理—日本酒をふくむ— 『食生活近代史』雄山閣 6月 [284  
の外題換]
- \*293 舌ざわり・後あじ——日本の味について 『Energy』23号 10月 [328に所  
収]
- \*294 大陸の蕎麦 植原路郎・薩摩卯一共編『そばの本』柴田書店刊行 7月
- \*295 米・酒・すし——食生活 [中尾佐助上山春平との対談] 上山春平・梅原猛共編  
『シンポジウム：日本と東洋文化』7月 新潮社刊行
- \*296 洋食のことはじめ 『月刊健康』62号 6月号

1970年

- \*297 燕窩 『日本歴史』1月号 通巻第260号 1月
- \*298 『すしの本』 6月 柴田書店 [改版]
- \*299 うしおとせんば——調理と食塩 『風俗』9巻2号
- \*300 すしの進化(講演要旨) 『同志社家政』3号 3月
- \*301 とんでもない「おせち代打説」『朝日新聞』12月26日
- \*302 キヌガサタケの食べ方 『日本菌学会会報』11巻3号 12月
- \*303 近世食経考 藪内清・吉田光邦共編『明清時代の科学技術史』京都大学人文科  
学研究所刊行 [341・466に所収]

- \*304 『米の文化史』 7月 社会思想社 [『米と日本人』の増補改訂版]
- \*305 自著を語る——『米の文化誌』—— 農業共済新聞 11月
- \*306 松茸中毒異聞 『日本菌学会会報』11巻3号 12月
- \*307 寝屋川の舟運 『風俗』9巻1号 7月
- \*308 大陸のすし 『楽味』9月
- \*309 珍談松茸中毒 『楽味』10月号
- \*310 竹蓐と虫草 『楽味』11月
- \*311 冬虫夏草のたべかた 『日本菌学会会報』11巻3号 12月
- \*312 老牛芹について—芝罘の思い出— 『衛生京都』251号 11月15日

1971年

- \*313 民衆生活ノート(1) 『季刊人類学』2-1 [486に所収]
- \*314 民衆生活ノート(2) 『季刊人類学』2-2 [同上]
- \*315 民衆生活ノート(3) 『季刊人類学』2-3 [同上]
- \*316 民衆生活ノート(4) 『季刊人類学』2-4 [同上]
- \*317 お米のこわさ 『楽味』正月号
- \*318 食物史のすすめ 『楽味』2月号
- \*319 純粋食品 『楽味』3月号
- \*320 草餅 『楽味』4月号
- \*321 竹雑話 『楽味』5月号
- \*322 蛙 『楽味』6月号
- \*323 北京の夏 『楽味』7月号
- \*324 うり物語 『楽味』8月号
- \*325 寺納豆と糸曳納豆 『楽味』
- \*326 あまづら——古代の甘味料—— 『楽味』
- \*327 食物の季節感 『Energy』30号 7月
- \*328 舌ざわり・後あじ——日本の味について—— 『Energy』特別号「論集＝日本文化」10月 [349に所収]
- \*329 節分そのおい立ち 『朝日新聞』[家庭欄]
- \*330 大学教授 『三高同窓会会報』39号 3月
- \*331 メモ——すし——[談] 『サンケイ新聞』[「ホームニュース」] 4月8日
- \*332 粽と柏餅 『古事類苑 [吉川弘文館版] 月報』49号 4月
- \*333 鮎用植物志 『季刊 植物と文化』夏号 [創刊号]

篠田統資料目録 I (著作目録)

- \*334 日新雑誌 『日本歴史』 8月号 通巻第279号
- \*335 指標植物 『衛生京都』 261号 9月15日
- \*336 豆腐考 [林海音他編] 『中国豆腐』 [台北] 純文學出版社 10月 [288の千景讓氏中国語訳]
- \*337 主食と副食・食品・酒・茶と菓子 『日本を知る事典』 社会思想社 [分担執筆] 10月 [488で再刊]
- \*338 すしの歴史 『月刊 専門料理』 6巻3号 3月
- \*339 シナにおける菌の栽培史 『日本菌学会会報』 12巻
- \*340 御膳所日記のキノコ 『日本菌学会会報』 12巻

1972年

- \*341 『中国食経叢書』 上・下二冊 田中静一との共編著 書籍文物流通会刊行  
上巻4月・下巻 9月
- \*342 民衆生活ノート(5) 『季刊人類学』 3-1 [486に所収]
- \*343 民衆生活ノート(6) 『季刊人類学』 3-2 [同上]
- \*344 民衆生活ノート(7) 『季刊人類学』 3-3 [同上]
- \*345 民衆生活ノート(8) 『季刊人類学』 3-4 [同上]
- \*346 主食と文化形態——あるいは「主食亡国論」 『Energy』 Vol. 9 No. 1  
「特集=食事文化」31号 1月[364に所収] [他に中国/北京/漢人, イタリア/ナポリ/イタリア人, オランダ/ユトレヒト/オランダ人のアンケートが掲載されている]
- \*347 食べて来た台北 『楽味』 4月号
- \*348 荆楚歳事記 『季刊 植物と文化』 3号 [冬号]
- 349 舌ざわり・後あじ——日本の味について—— 『日本文化と世界——論集・日本文化②——』 [講談社現代新書] 6月 講談社
- \*350 新刊紹介 [古川瑞昌著] 『餅の博物誌』 『風俗』 11巻1号 11月20日
- \*351 台北雑記 『風俗』 11巻1号 11月20日
- \*352 地生毛 『日本菌学会会報』 13巻
- \*353 テングノムギメシ3則 『日本菌学会会報』 13巻
- \*354 「おかず」とは「食欲増進剤」? 『婦人画報』 2月号

1973年

- \*355 民衆生活ノート(9) 『季刊人類学』 4-1 [486に所収]
- \*356 民衆生活ノート(10) 『季刊人類学』 4-2 [同上]

- \*357 民衆生活ノート(11) 『季刊人類学』 4-3 [同上]
  - \*358 民衆生活ノート(12) 『季刊人類学』 4-4 [同上]
  - \*359 お豆腐の歴史 『食物と健康』 春季号 3巻1号(通巻第9号) 3月
  - \*360 お米の歴史(1) 『食物と健康』 秋季号 3巻3号(通巻第11号) 9月
  - \*361 お米の歴史(2) 『食物と健康』 冬季号 3巻4号(通巻第12号) 12月
  - \*362 甘藷の伝来 『季刊 植物と文化』 8号 春号
  - \*363 漁村の食事 『Energy』 第10巻第1号 35号 1月
  - \*364 主食と文化形態——あるいは「主食亡国論」 『世界の食事文化』 ドメス出版  
9月  
中国/北京/漢人 同上  
イタリア/ナポリ/イタリア人 同上  
オランダ/ユトレヒト/オランダ人 同上
  - \*365 つや(人間を考える 23)(藤岡喜愛氏との対談) 『放送朝日』 11月号 12月  
[383に所収]
  - \*366 ウメの文化史 『いけばな芸術全集』 2「梅・おもと編」 11月
  - \*367 食える野草・食はぬ野草 『風俗史学会会報』 161号 12月
  - \*368 続せんば 『風俗』 11巻2号
  - \*369 再びマツタケ中毒について 『日本菌学会会報』 14巻
  - \*370 八丈島の菌 『日本菌学会会報』 14巻
- 1974年
- \*371 『中国食物史』 柴田書店 6月
  - \*372 民衆生活ノート(13) 『季刊人類学』 5-1 [486に所収]
  - \*373 民衆生活ノート(14) 『季刊人類学』 5-2 5月 [同上]
  - \*374 民衆生活ノート(15) 『季刊人類学』 5-3 [同上]
  - \*375 民衆生活ノート(16) 『季刊人類学』 5-4 [同上]
  - \*376 台湾山地民食生活警件 『季刊人類学』 5-2 5月 [尾崎千恵子と共同執筆]
  - \*377 塩を嘗めない人々 『月刊健康』 2月号
  - \*378 粽と柏餅 『月刊健康』 6月号
  - \*379 すしの歴史① 『食物と健康』 夏季号 4巻2号(通巻第14号) 6月
  - \*380 すしの歴史② 『食物と健康』 秋季号 4巻3号(通巻第15号) 9月
  - \*381 新・食物史 [石毛直道・大塚滋と分担執筆] 『読売新聞』 「日曜版」 1月~11

月 [408に所収]

- \*382 素人食物史学論 『風俗』12巻3号 5月
- \*383 つや——藤岡喜愛氏との対談 藤岡喜愛編『対談：続・人間を考える II』 5月 社会思想社
- \*384 塩のない食生活 (台湾のタイヤル族) 食品科学会編 食品科学会6月例会テキスト 6月5日
- 385 雑茸を愛でる——味の文化史 『魚菜 '74』
- 386 塩味の分布——味の文化史 『魚菜』
- 387 箸二本史——味の文化史 『魚菜』

1975年

- \*388 民衆生活ノート(17) 『季刊人類学』6-1 [486に所収]
- \*389 民衆生活ノート(18) 『季刊人類学』6-2 [同上]
- \*390 民衆生活ノート(19) 『季刊人類学』6-3 [同上]
- \*391 民衆生活ノート(20) 『季刊人類学』6-4 [同上]
- \*392 いもの歴史(1) 『食物と健康』春季号 5巻1号 (通巻第17号) 3月
- \*393 いもの歴史(2) 『食物と健康』夏季号 5巻2号 (通巻第18号) 6月
- \*394 小豆雑煮 『放送朝日』1月号 2月
- \*395 油木菟薺と神石牛 『放送朝日』2月号 3月
- \*396 たたら山 『放送朝日』3月号 4月
- \*397 野鍛冶 『放送朝日』4月号 5月
- \*398 野崎参り 『放送朝日』5月号 6月
- \*399 粽と柏餅 『放送朝日』6月号 7月
- \*400 川裾祭 『放送朝日』7月号 8月
- \*401 寝屋川船頭ばなし 『放送朝日』8月号 9月
- \*402 竹崎老人昔話 『放送朝日』9月号 10月
- \*403 武家屋敷 『放送朝日』10月号 11月
- \*404 地杜氏・地酒屋 『放送朝日』11月号 12月
- \*405 台湾タイヤル族聞書 『放送朝日』12月号 1月[1976年]
- \*406 琵琶湖の食べ物 (連載 びわ湖考②) 『水と人間』2号 3月
- \*407 若草ばなし 『月刊 健康』4月号
- \*408 『食物史』中公新書403 中央公論社 7月 (石毛直道・大塚滋との共著)
- \*409 中国文化と日本の風俗——食生活に及ぼした中国文化の影響—— 『風俗』13



巻4号 9月

- \*410 日本の鮓 『婦人画報』 4月号
- \*411 文様と食用作物 [河原正彦他編] 『日本の文様』 <21> 「五穀・果実」 光琳社出版

1976年

- \*412 『豆腐の話』 駸々堂ユニコンカラー双書020 [秋山十三子と共著] 駸々堂出版
- \*413 『料理』 『別冊太陽14』 平凡社
- \*414 民衆生活ノート(21) 『季刊人類学』 7-1 [486に所収]
- \*415 民衆生活ノート(22) 『季刊人類学』 7-2 [同上]
- \*416 民衆生活ノート(23) 『季刊人類学』 7-3 [同上]
- \*417 民衆生活ノート(24) 『季刊人類学』 7-4 [同上]
- \*418 料理秘伝記——天明ころの江戸鮓—— 『食物と健康』 春季号 6巻1号(通巻第21号) 3月
- \*419 料理山海郷——異国料理の浸透 『食物と健康』 夏季号 6巻2号(通巻第22号) 6月
- \*420 臨時客応接、『食物と健康』 秋季号 6巻3号(通巻第23号) 9月
- \*421 虚南留別志 『食物と健康』 冬季号 6巻4号(通巻第24号) 12月
- \*422 料理うらの裏 『月刊 健康』 141号 1月
- \*423 きのこと雑記 『月刊 健康』 150号 10月
- \*424 京の茸・江戸の茸 『知の考古学』 1・2月号(通巻第6号) 1月
- \*425 お袋の味(随筆) 『婦人公論』 2月号 61巻2号
- \*426 最後の晩餐のために——対談 開高健「わがフォークロア」 『旅』 4月号 [446に所収]
- \*427 八宗兼学一条の道 座談会 加藤秀俊・小松左京との鼎談 「連載座談会 碩学に聞く」 『本』 第3号 6月 [479に所収]
- 428 解説 『江馬務著作集』 第5巻「食事と住居」
- \*429 慶応三年鹿児島旅日記より 『西日本文化』 126号 11月
- \*430 春の鮓(日本のたべもの再考1) 『栄養と料理』 4月号
- \*431 粽(日本のたべもの再考2) 『栄養と料理』 5月号
- \*432 梅干し(日本のたべもの再考3) 『栄養と料理』 6月号
- \*433 鰻(日本のたべもの再考4) 『栄養と料理』 7月号
- \*434 素麺(日本のたべもの再考5) 『栄養と料理』 8月号

篠田統資料目録Ⅰ（著作目録）

- \*435 小豆（日本のたべもの再考6）『栄養と料理』9月号
- \*436 豆腐（日本のたべもの再考7）『栄養と料理』10月号
- \*437 芋（日本のたべもの再考8）『栄養と料理』11月号
- \*438 さつまいも（日本のたべもの再考9）『栄養と料理』12月号

1977年

- 439 『増訂 米の文化史』10月 [298の改訂版] 社会思想社
- 440 『ごはんの話』 駸々堂ユニコンカラー双書044（後藤金吉と共著） 駸々堂出版
- \*441 カワチシャとホザキノフサモ 『季刊 植物と文化』第20号
- \*442 料理通 『食物と健康』春季号 7巻1号（通巻第25号） 3月
- \*443 年中番菜録 『食物と健康』夏季号 7巻2号（通巻第26号） 6月
- \*444 西洋料理通 『食物と健康』秋季号 7巻3号（通巻第27号） 9月
- \*445 食道楽 『食物と健康』冬季号 7巻4号（通巻第28号） 12月
- 446 人を食った人たち——開高健と対談『悠々として急げ』（開高健対談集） 日本交通公社 3月
- \*447 植物と多種多様の酒 『週刊朝日百科 世界の植物』83号 6月26日
- \*448 素麺 『そうめん』第1集 三輪そうめん山本 7月
- \*449 中国文人の酒と肴 『NHK「趣味の手帳」より 酒と私』 文化出版局 9月
- 450 序 中沢正著・篠田統監修『日本料理史考』11月 柴田書店
- \*451 食べ物と行事 『風俗』16巻1号 12月
- \*452 随筆と私 『日本随筆大成』第三期第17巻 付録 吉川弘文館 12月
- \*453 稲米雑話 『食生活』71巻12号（通巻第810号） 12月
- \*454 もち（日本のたべもの再考10）『栄養と料理』1月号
- \*455 漬物（日本のたべもの再考11）『栄養と料理』2月号
- \*456 白酒（日本のたべもの再考12）『栄養と料理』3月号
- \*457 鶏（日本のたべもの再考13）『栄養と料理』4月号
- \*458 筍と木の芽（日本のたべもの再考14）『栄養と料理』5月号
- \*459 鰯（日本のたべもの再考15）『栄養と料理』6月号
- \*460 土用（日本のたべもの再考16）『栄養と料理』7月号
- \*461 盆（日本のたべもの再考17）『栄養と料理』8月号
- \*462 彼岸のぼたもち（日本のたべもの再考18）『栄養と料理』9月号
- \*463 山果（日本のたべもの再考19）『栄養と料理』10月号

- \*464 お粥（日本のたべもの再考20）『栄養と料理』11月号
- \*465 肉食（日本のたべもの再考21）『栄養と料理』12月号
- 1978年
- \*466 『中国食物史の研究』9月 八坂書房
- \*467 『暮しの知恵——考える生活科学』玉川選書 玉川大学出版部 4月
- 468 『すしの話』 駸々堂ユニコンカラー双書060 駸々堂出版
- \*469 『図説 江戸時代 食生活事典』日本風俗史学会編 雄山閣（川上行蔵と共に編集代表）
- \*470 『料理文献解題』川上行蔵編著 柴田書店〔分担執筆〕
- \*471 稲米雑話 『食生活』72巻1号（通巻第811号）1月
- \*472 稲米雑話 『食生活』72巻2号（通巻第812号）2月
- \*473 民衆生活ノート(25) 『季刊人類学』9-1 [486に所収]
- \*474 料理食道記 『食物と健康』春季号 8巻1号（通巻第29号）3月
- \*475 料理の歴史を見わたす——料理文献解題—— 『食物と健康』8巻2号（通巻第30号）6月
- 476 すしの種類と分布（大野晋・祖父江孝男編集）『日本人の原点2 文化社会・地域差』〔現代のエスプリ 臨時増刊号〕至文堂 3月
- \*477 関西ずしの系譜 [荒木信次編]『すし技術教科書 関西ずし編』旭屋出版 5月
- \*478 新おあむ物語——機無女聞書 [篠田有策著]『椰子の落葉』〔私家版〕8月（附録として所収）
- 479 篠田統八宗兼学一条の道——加藤秀俊・小松左京との鼎談（加藤秀俊・小松左京編著）『学問の世界 碩学に聞く⑤』〔講談社現代新書515〕講談社 8月
- 480 偏食のすすめ 『人生読本 食べもの』河出書房新社 10月
- \*481 江戸と上方（日本のたべもの再考22）『栄養と料理』1月号
- \*482 南の旅・北の旅（日本のたべもの再考23）『栄養と料理』2月号
- \*483 家庭の帰化料理（日本のたべもの再考24）『栄養と料理』3月号
- \*484 江戸期の人びとは意外に肉がお好き〔談〕? 〔特集=食いもの文化〕掲載誌不明
- \*485 酒というもの——坂口謹一郎・田中静一・薄井恭一との座談会 『月刊食堂別冊 居酒屋』3号 2月

1979年

篠田統資料目録Ⅰ（著作目録）

- \*486 『風俗古今東西』 1月 社会思想社  
487 『日本風俗史事典』（日本風俗史学会編） 弘文堂 2月 [項目分担執筆]  
488 主食と副食・食品・酒・茶と菓子 『日本を知る小事典』 3 現代教養文庫  
1003 社会思想社 [分担執筆] (337の再刊)
- 1980年  
489 「米・貧乏人・多産」 『巻頭随筆』（Ⅱ） 文芸春秋社 3月25日 [155の再録]
- 1982年  
490 『すしの本』（日本料理技術選集） 柴田書店 2月 [再版]  
491 『料理文献解題』（川上行蔵編著） [日本料理技術選集] 柴田書店 2月 [再版]
- 1985年  
492 『米と日本人』『食の風俗民俗名著集成』 第2巻 [解説 平野雅章, あとがき  
篠田熙] 東京書房社 [220の復刊]
- 追加
- 1952年  
\*493 生活改善と局地性 『村』 62号 3月
- 1954年  
\*494 手織木綿によせて 『村』 90号 9月  
\*495 近江の鮓 『あまカラ』 30号 2月  
\*496 中国の鮓 『あまカラ』 33号 5月  
\*497 お願い 『生活文化研究』 第3冊 7月 （「大阪府豊能郡西能勢村正月風俗」  
末尾附載）
- 1968年  
\*498 お酒の神様 『甘辛春秋』 冬の巻 11月
- 1974年  
\*499 すし博士随談（聞き手 吉野昇雄） 『近代食堂別冊 すしの雑誌』 1月
- 1978年  
\*500 日本人と米のめし 『日本の味——魚菜と郷土料理——』 朝日新聞社 10月